

第 1 学 年

国語科年間指導計画【現代の国語】

■単位数

2 単位

■使用教科書

精選現代の国語(東京書籍)

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関すること
 - ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。
 - イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。
 - ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
 - エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
 - オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。
 - カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。
- (2) 情報の扱い方に関すること
 - ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。
 - イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。
 - ウ 推論の仕方を理解し使うこと。
 - エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。
 - オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関すること
 - ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

- 話すこと・聞くこと
 - ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。
 - イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。
 - ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。
 - エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。
 - オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。
- 書くこと
 - ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。
 - イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。
 - ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。
 - エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。
- 読むこと
 - ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。
 - イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
(2) 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能						思考力、判断力、表現力等						言語活動	教材	評価の観点及び評価方法	
		(1)			(2)			(3)	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと				
		アイウエオカ	アイウエオ	ア	アイウエオ	ア	アイウエオ	アイウエ	アイ								
1 学期 前半	自己と他者	●		●										●	段落に分けて、内容を要約する	「届く言葉」 内田樹	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
					●		●		●	●					自分の考えについてスピーチする	「分かりやすい説明をする」	(1)-ワークシート (2)-ワークシート (4)-振り返りシート
	認識を深める				●	●								●	論理の展開について批評する	「水の東西」 山崎正和	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
							●					●			調べたことをまとめる	「発想を広げて課題を見つめる」	(1)-ワークシート (2)-ワークシート (4)-振り返りシート
1 学期 後半	言葉と社会				●			●						●	筆者の主張をまとめて論述する	「言葉は世界を切り分ける」 今井むつみ	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
						●		●			●				自分の意見を論述する	「まちの豊かさとは何か」 山崎亮	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
2 学期 前半	ともに生きる		●										●		本文を引用しながら意見文を書く	「真の自立とは」 鷺田清一	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
			●				●		●	●					表現方法を工夫する	「自立と市場」 松井彰彦	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
			●				●		●	●					表現方法を批評する	「共鳴し引き出される力」 伊藤亜紗	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
2 学期 後半	世界を広げる				●	●								●	論理の展開について批評する	「無駄と進化」 中屋敷均	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
					●		●							●	文章の内容を対象化して検討する	「生物の多様性とは何か」 福岡伸一	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
3 学期	世界を広げる							●	●						自分の意見を的確に伝える工夫をする	「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 松田雄馬	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
				●			●				●	●			発表を聞き取り、質問する	「白」 原研哉	(1)-定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート
			●	●									●		調べたことを整理して意見文を書く	「論証してレポートにまとめる」	(1)-ワークシート (2)-ワークシート (4)-振り返りシート

国語科年間指導計画【言語文化】

■単位数

3単位

■使用教科書

精選言語文化（第一学習社）

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関すること
 - ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。
 - イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
 - ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
 - エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。
 - オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。
- (2) 我が国の言語文化に関すること
 - ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。
 - イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。
 - ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。
 - エ 時間の経過や地域・文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。
 - オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。
 - カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

- 書くこと
 - ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。
 - イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。
- 読むこと
 - ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。
 - イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。
 - ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。
 - エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。
 - オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
(2) 思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能										思考力、判断力、表現力等					言語活動	教材	評価の観点及び評価方法	
		(1)					(2)					書くこと	読むこと			古典				
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ		カ	アイ	アイ					イウ
1 学期 前半	小説	●		●	●									●				作品の内容や形式について話し合う	『羅生門』 芥川龍之介	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (3) ー振り返りシート
	古文入門	●															●	古文について考えたことを交流する	古文を読むために1・2	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (4) ー振り返りシート
									●	●					●		●	古文の特徴について話し合う	『兄のそら寝』『絵仏師良秀』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (5) ー振り返りシート
1 学期 後半	小説		●													●	●	人物の心情を読み取り話し合う	『砂に埋もれたル・コルビュジエ』 原田マハ	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (6) ー振り返りシート
	随筆								●	●					●		●	複数の文章を比較し、文章にまとめる	『ある人、弓射ることを習ふに』 『丹波に出雲といふ所あり』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (7) ー振り返りシート
	漢文入門							●	●				●			●	●	漢文の特徴について考えたことを交流する	漢文をよむために1・2・3	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (8) ー振り返りシート
	故事成語		●		●									●			●	漢文の特徴について話し合う	『漁夫之利』『狐借虎威』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (9) ー振り返りシート
2 学期 前半	小説		●	●	●									●			●	内容及び作品世界について話し合う	『夢十夜』 夏目漱石	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (10) ー振り返りシート
	歌物語								●	●				●			●	文章と絵画を結びつけて捉え、表現する	『伊勢物語』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (11) ー振り返りシート
2 学期 後半	詩					●						●	●					感じたことや発見したことを詩で表現する	『I was born』 吉野弘	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (12) ー振り返りシート
	日記								●			●				●	●	心情表現や言語表現を分析する	『土佐日記』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (13) ー振り返りシート
	史伝								●	●		●					●	比喩や暗示を分析し、話し合う	『十八史略』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (14) ー振り返りシート
3 学期	小説		●	●										●				要旨をまとめて発表する	『城の崎にて』 志賀直哉	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (15) ー振り返りシート
	軍記物語								●		●					●	●	心情表現や言語表現を分析する	『平家物語』	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (16) ー振り返りシート
	漢詩								●	●						●	●	詩の内容をまとめて発表する。	唐詩	(1) ワークシート、定期テスト (2) ワークシート、定期テスト (17) ー振り返りシート

2 0 2 5 年 度 地 歴 公 民 科 年 間 授 業 計 画 表						
科目名	公共		単位数	2	学年・類型	1 年 生
担当者		使用教科書	『新版 公共』（数研出版）		副教材	最新図説公共（浜島書店） 公共 整理ノート（数研出版）
科目の目標 （指導目標）	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している ・諸資料から、倫理的主体等として活動するために必要となる情報を、適切かつ効果的に調べまとめている。					
②思考・判断・表現	・現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、諸事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを発信し、議論している。					
③主体的に学習に取り組む態度	現代社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に入れて、主体的に取り組む解決しようとしている。					
評 価 方 法						
○個別の知識及び技能の習得状況について評価・・・定期テスト、課題レポート、小テスト ○思考力、判断力、表現力等の評価・・・論述式レポートの作成、プレゼンテーション、集団討議の観察、定期テスト・小テスト ○主体的に学習に取り組む態度の評価・・・授業ノート・レポート、授業中の発言や行動の観察、生徒の自己評価や相互評価など						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	第1章 公共的な空間をつくる私たち	1 青年期と自己形成	・青年期の意義と特徴について理解し、多面的・多角的に考察し、適切に表現する。 ・青年期の意義と特徴について理解し、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとする。 ・三大宗教が人間の生き方や社会のあり方に与えた影響を理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・各宗教の教えの理解から、公共的な空間における人間としての自覚を主体的に深めようとする。 ・日本人の伝統的な考え方と人間関係の特徴について理解する。 ・国際社会に生きる日本人としての態度と能力を多面的・多角的に考察し、表現しようとする。 ・日本人の伝統的な考え方や文化への理解から、自ら主体的に社会に参画する自立した主体についての自覚を深める。	○	○	
		2 人間としての自覚				○
		3 日本人としての自覚		○	○	○
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	1 西洋近現代の思想	・西洋近現代の思想を通して人間尊重の意味、自由についての考え、社会改良や変革の考え方、主体性の確立などについて思想家たちの考え方を理解し、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・よりよい社会の実現へむけての思想家の考え方の理解を通して、公共的な人間としての生き方について自覚を深める。	○	○	○
1 学 期 後 半	第3章 公共的な空間における基本原理	2 現代の諸課題と倫理	・現代の倫理的な諸課題を自己の課題とつなげて理解し、関連した知識を身につけており、多面的、多角的に考察し、さまざまな方法で表現する。 ・現代の倫理的諸課題を自己の課題につなげる意欲を持つとともに、現代に生きる人間として主体的に探究しようとする。	○	○	○
		1 民主社会の基本原理	・民主政治と基本的人権の歴史的な発展、法の支配や社会契約思想の考え方、権力分立や世界の政治制度の理解ができ、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・民主政治や人権についての理解を通して、民主主義の基本的な原理を主体的かつ意欲的に追究しようとする。	○	○	○
		2 日本社会の基本原理	・二つの憲法の原理の相違点、自由権・平等権・社会権、新しい人権などの諸権利の内容について理解できており、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。	○	○	

			・ 基本的人権の理解を通して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。			○
2 学 期 前 半	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	1 日本の政治機構	・ 国会の役割や権限、議院内閣制のしくみや内閣の権限、官主導社会の特徴と課題、司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解でき、日本の政治機構の諸課題を多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。	○	○	
		2 政治参加と民主政治の課題	・ 日本の政治機構への理解を通して、自ら主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・ 日本の選挙制度、政党政治の現状と諸課題、マス・メディアが政治にもたらす影響について理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 政治参加と公正な世論の形成への理解を通して、主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・ 地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 地方自治への理解を通して、自ら主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。	○	○	○
2 学 期 後 半	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方	1 経済のしくみと市場機構	・ 資本主義経済の成立と展開、社会主義経済の特徴と変容、経済における政府の役割の変化について理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 資本主義経済の変遷、社会主義経済の特徴と変容、現代資本主義の特徴への理解を通して、主体的に学習上の課題を解決しようとしている。 ・ 現代の企業の区分、株式会社の特色について理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 企業の形態や活動、現代の企業の特色への理解を通して、自ら主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。	○	○	○
		2 財政と金融	・ GDPなどの経済の指標、経済成長と景気循環、物価とインフレ・デフレの生活への影響について理解でき、国の豊かさを数値化する意味について多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ GDPをはじめとする経済指標への理解を通して、主体的に追究して学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・ 所得再分配などの政府の役割、租税を中心とした公的負担の意義と、税金の使途、金融の仕組みと金融機関の役割、景気安定のための金融政策や金融の自由化などの動きなどについて理解でき、それらを多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 財政・金融の働きについて関心を持ち、主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。	○	○	○
2 学 期 後 半		3 日本経済の発展と変化	・ 戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解でき、各種データから多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 日本での所得格差や貧困の課題や、2000年代以降に景気が拡大しても経済成長率が伸び悩んでいる理由について理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて、日本経済の現状への理解を通して、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。	○	○	○
		4 豊かな生活と福祉の実現	・ 中小企業、日本の農業の現状と課題について理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 中小企業や農業のあり方について、中小企業や農業の現状への理解を通して、学習上の課題を意欲的かつ主体的に解決しようとする。 ・ 消費者問題について理解でき、消費者主権や消費者の権利の観点などから多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ 消費者の権利と責任についての理解を通して、主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・ 日本における公害の発生と原因、政府による公害対策や環境保全のための法整備、地球環境問題を解決するための新しい制度や取り組みなどについて理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表	○	○	○

			現する。 ・今後の環境問題の解決について、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・労働基本権と労働三法の内容、日本の労働環境に関する課題について理解できており、雇用や労働のあり方について、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・雇用と労働問題への深い理解を通して、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・社会保障制度の考え方、日本の社会保障制度の問題点について理解できており、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・社会保障制度の意義と役割への理解を通して、安心して暮らせる豊かな社会について、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。				○
3 学 期	第6章 国際社会の動向と日本の役割	1 国際政治の動向	・主権国家と国際社会の成り立ち、国際法と国内法の違いについて理解でき、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・国際政治の特質や国際法への理解を通して、国家間の諸問題について、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・勢力均衡と集団的自衛権、国連の組織と活動について理解できており、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・国際政治の成り立ちや特質の理解を通して、国際的な課題について、主体的に追究し、意欲的に解決しようとする。 ・冷戦と冷戦終結後の国際紛争について理解できており、解決すべき課題について、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・国際社会における紛争の理解を通して、問題解決に向けて、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。	○	○		○
		2 国際政治の課題と日本の役割	・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制について理解できており、多面的・多角的に考察し、さまざまな方法で表現する。 ・我が国の安全保障と防衛への理解を通して、主体的に追究して、意欲的に課題解決に取り組んでいる。 ・核抑止論の考え方について理解できており、軍縮に関して多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・人種問題、多文化共生主義、難民や国内避難民などについて理解し、どのような援助が必要とされているのかを多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・国際貢献のさまざまなあり方に対する理解を通して、地球規模の課題について、自ら主体的に追究し、意欲的に解決しようとする。	○	○		○
		3 国際経済の動向と国際協力	・自由貿易を基本とする国際経済体制について理解できており、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・自由貿易を基本とする国際経済体制の理解を通して、望ましい貿易のあり方について、主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとする。 ・経済のグローバル化にともなう金融危機と、その結果としての国際的な資本取引に対する金融規制について理解し、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・各地域でどのような経済統合が形成されていったかについて理解できており、地域的経済統合のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・ODAからSDGsにつらなる援助と開発の過程について理解できており、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現する。 ・世界の貧困と格差問題の現状に対する理解を通して、それらの課題の解消について自ら主体的に追究し、意欲的に解決しようとする。	○	○		○
留意事項	2・3年生の地理歴史科の学びとも深く関連する内容です。自発的に学習に取り組むことを期待します。						

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学Ⅰ・A・Ⅱ	6	1年	1年

使用教科書	副教材等
高等学校 数学Ⅰ・A・Ⅱ（数研出版）	クリアー数学Ⅰ＋A、Ⅱ＋B（数研出版） チャート式Ⅰ＋A、Ⅱ＋B（数研出版）

科目の目標
・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
②思考・判断・表現	事象を数学的に捉え多面的・論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり解決の過程を批判的に考察し判断したりする力を養う。
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	
記述の点検，確認，分析 行動の点検，確認，分析 （定期テスト，小テスト，課題レポートやその他提出物等への取組状況，授業への取組状況 等）	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	数学Ⅰ 第1章 数と式	第1節 式の計算	複雑な多項式を適切に展開・因数分解できる。	○		
		第2節 実数	数を実数まで拡張する意義を理解し，簡単な命題を証明することができる。	○	△	
			根号を含む式の計算について，一般化して考えられる。	△	○	
		第3節 1次不等式	不等式の性質について，等式における性質と比較して，考察することができる。	△	○	
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			○

1 学 期 後 半	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ	関数を理解し、数量の変化の様子を表現できる。	△	○	
			平方完成してグラフを描くことができる。	○		
		第2節 2次関数の値の変化	グラフを活用し、最大値・最小値が求められる。	○	△	
			適切な方法で2次方程式を解くことができる。	○		
		第3節 2次方程式と2次不等式	判別式を用いた考察ができる。	△	○	
			様々な2次不等式を解くことができる。	○		
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			○
	第4章 図形と計量	第1節 三角比	三角比の意味と相互関係について理解している。	○		
			三角比の値や角の大きさを求めることができる。	△	○	
		第2節 三角形への応用	正弦定理、余弦定理、面積公式と図形の計量に応用できる。	△	○	
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			○
	第5章 データの分析	第5章 データの分析	四分位偏差、分散、標準偏差、散布図及び相関係数などの意味やその使い方を理解している。	○		
			目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。	△	○	
			仮説検定の考え方を理解し、不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。	△	○	
			数学の内容を生活と関連付けたり発展させたりして、課題に対して意欲や関心を持つことができ、主体的に取り組んで解決しようとする。			○

2 学 期 前 半	第2章 集合と 命題	第2章 集合と命題	必要条件・十分条件の判断ができる。	△	○	
			命題の真偽を対偶や背理法を利用して証明することができる。	△	○	
			集合の概念や性質を理解している。	○		
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			○
	数学A 第1章 場合の 数と確率	第1節 場合の数	和の法則・積の法則を活用できる。	○		
			順列と組合せについて理解し、様々な場合の数を考えることができる。	△	○	
		第2節 確率	確率の定義、性質を理解し、適切に確率を求めることができる。	○		
			反復試行の確率の公式を活用できる。	○		
			条件付き確率について理解し、求め方がわかる。	△	○	
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			○
2 学 期 後 半	第2章 図形の 性質	第1節 平面図形	外心・内心・重心の性質を理解している。	○		
			角度や線分の長さを求めるのに、適切な定理を適用することができる。	○		
		第2節 空間図形	空間における図形の位置関係などを理解し、それらを事象の考察に活用することができる。	△	○	
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			○
	数学Ⅱ 第1章 式と証 明	第1節 式と計算	二項定理を用いて式を展開できる。	○		
			整式の除法や分数式の四則計算ができる。	○		
		第2節 等式不等式の 証明	恒等式の概念と性質について理解している。	○		
			恒等式の未定係数を決定することができる。	△	○	
			等式の証明をすることができる。	△	○	
			実数の大小関係に関する基本性質などを理解している。	○		
			実数の大小関係に関する基本性質などを基に、不等式の証明をすることができる。	△	○	
			複素数の四則計算ができる。	○		

3 学 期	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次 方程式の解	解と係数の関係を用いて対称式の値や2次方程式の係 数を求めることができる。	○	△	
		第2節 高次方程式	剰余の定理を利用して余りを求めることができる。	○		
			高次方程式を解くことができる。	○		
			単元を通して ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を 養う。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする 態度を養う。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評 価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養 う。			○
	第2章 図形と 方程式	第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡	線分の内分点，外分点の公式を統一して捉えようとする。		○	
			図形的条件（線対称など）を式で表現できる。		○	
			与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。	○		
			2つの円の位置関係を，中心間の距離と半径の関係で 考察することができる。		○	
			軌跡を求めるには，逆についても調べる必要があること を理解している。			○
			連立不等式の表す領域を図示することができる。	○		

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎	2	1	普通科

使用教科書	副教材等
化学基礎（数研出版）	新編アクセス化学基礎（浜島書店）

科目の目標
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の視点とその趣旨	
①知識・技能	・化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、科学的に探究する方法を身に付けている。
②思考・判断・表現	・化学的な事物・現象に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	・化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、それらを主体的に関わるとともに、科学的態度を身に付けている。

評価方法
①課題テスト・定期テスト～知識の確認と記述問題についての表現力 ②課題テスト・定期テスト～具体的な事象を理解しているか ③レポート（R）・実験レポート（Z R）～しっかりした調べと実験考察ができていくか

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期 中間	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	1 純物質と混合物 2 物質とその成分	・身の回りにどのような物質があるか理解できている。 ・物質の分類とその分離方法について理解できている。 ・物質を構成している基本的な成分を理解できている。 ・R 単体と化合物の違いを例を挙げて記述できる。			○
	第2章 物質の構成粒子	3 物質の三態と熱運動 1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表	・氷・水・水蒸気を例に物質の状態変化について理解できている。 ・原子の構造を学び、原子ごとの違いを理解できている。 ・原子とイオンの違いとイオンの成り立ちについて理解できている。 ・R 陽イオン、陰イオンになりやすい原子の特徴は何かを理解できている。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解できている。 中間テスト			○
1学期 期末	第3章 粒子の結合	1 イオン結合とイオン結晶 2 共有結合と分子 3 配位結合 4 分子間にはたらく力 5 高分子化合物 6 共有結合結晶 7 金属結合と金属結晶	・イオン結合とイオン結晶の性質を理解できている。 ・R イオン結晶の性質を記述できる。 ・共有結合と分子の表し方について理解できている。 ・配位結合の成り立ちについて理解できている。 ・分子間力と分子結晶の性質を理解できている。 ・R 分子結晶の性質を記述できる。 ・高分子化合物の成り立ちや構造を理解できている。 ・共有結合の性質を記述できる。 ・金属結合と金属結晶を理解できている。 期末テスト			○
	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量 実験 炭酸水素ナトリウム加熱による量的関係	課題テスト ・原子の質量などの表し方の工夫について理解できている。 ・R 相対質量と原子量の求め方を、窒素について記述できる。 ・物質質量を用いた数の表し方について理解できている。 ・R 物質質量とはどのような量なのか記述できる。 ・2種類の濃度の表し方について理解できている。 ・化学反応式の作り方と物質質量の間の関係について理解できている。 ・Z R 実験レポート提出 中間テスト	○	○	○
2学期 中間	第2章 酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定 実験 食酢濃度測定	・酸・塩基の定義と性質、その種類について理解できている。 ・R アレニウスとブレスレット・ローリーの定義の違いを記述できる。 ・pHと水溶液の性質の関係について理解できている。 ・中和反応の仕組みと塩の性質について理解できている。 ・中和反応の量的関係と中和滴定について理解できている。 ・R 中和反応の量的関係について「価数」「モル濃度」「体積」という用語を使い記述できる。 ・Z R 実験レポート提出 期末テスト			○
	第3章 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	課題テスト ・酸化と還元が電子の授受によることを理解できている。 ・酸化剤・還元剤とそのはたらきや量的関係について理解できている。 ・R 酸化還元反応が起きるとき、酸化剤自身の变化を記述できる。 ・様々な金属の反応性について理解できている。 ・酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解できている。 ・R 電池の負極と正極を「イオン化傾向」という用語を用いて記述できる。 学年末テスト	○	○	○
3学期 学年末	終章 化学が拓く世界	1 食品保存の世界 2 化粧品品の化学 3 浄水場の化学	・R 食品保存の方法を理解しレポートにまとめることができる。 ・R 化粧品品に用いられている化学技術を理解しレポートにまとめることができる。 ・R 浄水場で行われている中和、沈殿、濾過の仕組みを理解し、レポートにまとめることができる。			○
						○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理基礎	2	1	普通科 全クラス

使用教科書	副教材等
物理基礎（数研出版）	リードLight物理基礎（数研出版） フォトサイエンス物理図録（数研出版）

科目の目標
物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	物体の運動や様々なエネルギーについて理解をするために、基本的な知識や観察・実験の技能を身につけている。
②思考・判断・表現	物体の運動や様々なエネルギーについて理解を深めるために、発展的な知識や物理現象が生じる因果関係について考え、表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動や様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題、観察実験での実験操作 ② 各種テストの思考を問う問題、課題や観察実験のレポート ③ 観察実験の参加、観察実験のレポートなど	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4～	序章	物理量の扱い方	有効数字について理解し、適切な表記ができる。	○		
9～	第1編 運動とエネルギー	運動の表し方 運動の法則 仕事と力学的エネルギー	物体は力を受けると加速すること、また、生じる加速度の大きさは質量に反比例し、力の大きさに比例することを理解し、運動方程式が立てられる。力はベクトル量であることを理解し、物体にはたらく力を作図できる。仕事やエネルギーの定義を正確に理解し、いろいろな物理量を計算できる。	○	○	○
10～	第2編 熱	熱とエネルギー	熱がエネルギーの一形態であることや、熱平衡、熱の移動、熱量、および、これらの関係について理解し、物質の状態変化や熱機関について考察できる。	○	○	○
	第3編 波	波の性質 音	波動とはどのような現象であるかを理解し、y-x図やy-t図を作図したり、読み取ったりできる。弦や気柱の固有振動が定在波であることから、楽器について考察できる。	○	○	○
1～	第4編 電気	物質と電気 磁場と交流	電流の流れる向きやオームの法則について理解し、直流回路における電流、電圧、抵抗値などを求められる。交流発電や変圧の仕組みやを学び、電気の利用について身近な例を挙げて考察できる。	○	○	○
	第5編 物理学と社会	エネルギーの利用	エネルギーの安全性やより良いエネルギー資源の利用法について学び、物理学と日常生活の関わりを意識できる。		○	○